



白川郷の合掌造り



第 17 号
平成27年3月31日
発行 (一財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
岐阜県大野郡白川村荻町
2495番地の3

初めまして、白川村地域おこし協力隊の大倉 暁と申します。

今年の三月から、荻町地区内の旧寺口家をお借りして、実際に住みながら合掌家屋や文化財の活用方法を考える取り組みを担当しており、今回こうした貴重な場をお借りして、僕たち協力隊の活動や、住んだ感想をお伝えさせていただきます。

まず、地域おこし協力隊という制度を、皆さんはご存知でしょうか？詳細は、管轄する総務省のHP等をご覧いただければと思いますが、人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を

白川村地域おこし協力隊と合掌家屋活用について

白川村地域おこし協力隊 大倉 暁

積極的に誘致し、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とする取組で、二〇一五年度で七年目を迎えるものです。

現在は、全国で約千五百名が活動し、昨今の地方創生の目玉政策のひとつとして、今後更なる増員が計画されています。白川村では、二〇一四年に私を含めた三名が着任、この四月からは更に四名が追加し、合計七名で活動していきます。

活動内容は、大きく分けると、少子高齢化や人口現象が続く白川村が単

独村として生き残るため、空き家対策や南部地域活性化など、人がとどまりやすくするソフトやハード面の制度や教育との連携や地域活性化と、交流人口獲得に向けた観光および行政のマーケティング活動を行っています。

こうした取組の一環として、文化財の活用や、通過型・受動型観光から、質の高い交流人口獲得につながる仕組みの実装を目指し、日本ナショナルトラスト様と、荻町の自然環境を守る会と連携して旧寺口家の利活用企画がスタートしました。

引越した当初は、しばらく人が入ることのなかった家屋であったため、空気も淀み、汚れも目立ちましたが、地区二百年を越える家屋の重厚な存在感や、四季の表情豊かな白川村の美しい自然や、朝露に濡れた茅葺きの屋根の美しさなど新しい発見がある毎日を楽しませていただいています。それと同時に、雪など厳しい自然に打ち克つてきた村民の方々のたくましさや、今なお多くの人手を介して守られている伝統や文化の重み、毎日来る観光客の方々に対しての気遣いや、ある意味見世物小屋的とも言える観光地としての注目に対するストレスなど、この土地で過ごすことに対するストレスも新参者ながら感じる日々です。

日々を過ごしながら強く感じることは、先人たちや、自然環境に感じて編み出された合掌家屋の素晴らしさや、白山麓の豊かな自然の表情は、瞬間的に見るだけでは、理解できないことと、これをもっと感じてもらうための、観光体制づくりと、受け継いできた文化や自然を、守ることだけに集中するのではなく、訪れたい、生まれ育った土地に帰ってきたい、住みたいと思ってもらいためにどう活かしていくかという意識の重要性です。こうしたきっかけづくりのため、お借りしている旧寺口家を今後、図書スペースや展示室など、「住み開き」ながら皆様のお力を借りながら村内外の方々が文化体験・交流を通して、未来を描ける場にできればと思います。

今後も、白川村地域おこし協力隊の活動へのご指導ご鞭撻の程、よろしくお願いたします。

平成26年度 自治保存会育成事業

静岡県焼津市・御殿場市 山梨県富士宮市 を訪ねて

平成二十六年度の自治保存会育成事業は、七月二日～三日の日程で静岡県で初の重要な伝統的建造物群保存地区に選定されることとなった焼津市花沢地区、世界文化遺産として登録された富士山の価値を構成する資産（構成資産／構成要素）また、東富士演習場のスキ（ふじがや）を生産している「富士山御殿場かやの里企業組合」の視察を行いました。



花沢伝建地区

視察参加者は事務局を含め一七名と、過密スケジュールにも関わらず沢山の参加をいただきました。

一日目、最初に五月に開催された文化審議会の審議・議決を経て、静岡県で初の重要な伝統的建造物群保存地区に選定されることとなった、焼津市花沢地区の視察を行いました。

花沢は焼津市北方の山間部の谷地にある三十戸ほどの山村集落で、保存地



花沢地区の方と意見交換

区は南北約八百m、東西約二百四十mで街道沿いの屋敷地と、そのまわりの畑や山林を含んでいます。街道沿いには石垣と附属屋が階段状に連なり、独特の景観を作り出しており、山の谷地に形成された花沢の景観は、街道沿いに連なる石垣と建物群が周囲の山林・畑地、川などの自然環境と調和し、独自の歴史的風致を形成しています。

住民保存会、文化財担当の方々と意見交換が行われ、街道が日本坂峠につながる場所ので、ハイカーの敷地への無断侵入や車の進入、高齢化による農業従事者の担い手不足・空き家問題など、伝建地区の多くに共通する課題が提示されました。しかし、都市部にも近く、観光開発ではなく居住地として保存を目指す花沢地区の今後を参考にしていきたいと感じました。

次に、平成二十五年六月に世界文化遺産に登録された富士山の価値を構成する資産を視察しました。忍野八海、旧外川家御師住宅、北口本宮富士浅間神社、河口湖と文化遺産解説員（ガイド）をお願いし、富士山全体を一体のものとし保護・保全する方針や仕組みを学びました。観光化が進んでいる場所もあり、各所に点在する観光駐車場や土産物店・看板等には同じ遺産地区として、同様の課題を感じました。



北口本宮富士浅間神社



忍野八海の個人営業の駐車場



継者育成」「伝統技術の継承」を図るため、年間を通して雇用を確保するための観光事業・農業支援などにも取り組んでいます。



二日目、白川でも大変お世話になっている「富士山御殿場かやの里企業組合」へ視察に伺いました。最初に御殿場市役所原里支所にてかや場（東富士演習場内入会地）の管理形態について説明を受け、維持保全のために行われる野焼きの重要性と規模の大きさに驚きました。現地でもやはり広大なかや場、さらに茅材の出荷量全国一位、本州シェア五割を占める生産がすべて手作業であることに驚くばかりでした。生産者の高齢化による生産量の減少を改善するために設立した組合では、一二月〜一月のかや刈りだけではなく、「地域雇用の確保」「後



管理形態の説明



広大なかや場



十一月十一日、岩手県金ケ崎町の財団法人金ケ崎町産業開発公社（千貫石茅場）を視察させていただきました。茅生産の取組を行っている産業開発公社では、収穫増を目指し導入二年目となる機械刈りが行われており、茅の自給率を増やしていきたい当村としては大変魅力的な視察でした。大型機械でもあり、導入には課題も多々ありますが、機械刈取の仕組等大変参考になりました。なお、皆さんの熱烈的な歓迎には、金ケ崎町の「おもてなし」の深さを感じてきました。

岩手県金ケ崎町 産業開発公社事業

現地視察



1月6日「せせらぎ駐車場」の普通車駐車台数が10万台を突破しました。10万台目に訪れたのは、兵庫県からお越しのツガールさん一家。白川村を初めて訪れたということで、記念のしんがいゆい米をもらい大喜びでした。今年度は昨年度よりも18日早い10万台の達成となりました。

せせらぎ駐車場

平成26年度
10万台の
お客様に感謝！



さつまいも畑

10月7日、白川小学校2年生の児童がさつまいも掘り作業を行いました。この畑は集落内の景観保全を目的に休耕田を利用して作っており、児童たちは職員から景観を守る大切さを学んだあと、一斉に芋掘りを行いました。



6月には苗植えも行っており、葉っぱの成長におどろきながらも恵みの秋を満喫しました。



12月には2年生からさつまいも感謝会の招待状をいただきました。子供たちと一緒に焼き芋を食べたりゲームをしたりとっても楽しい時間でした。子供たちの笑顔や元気な姿に癒され、これからも景観保全に取り組んでいきたいと思ひます。



2年生の皆さんより
さつまいもづくりのお礼の手紙を
いただきました。

財団では世界遺産の景観保全を目的に休耕田の復旧や維持管理を行っています。

今年も収穫したお米の一部を皆さんに味わって頂きたいと各代表へ手渡しました。

今年も集落内で作った新米を「瀬音さくら山荘・しゃくなげ荘」へ「村学校給食センター」へ寄贈しました。



水田協力隊 小林優希さん

5年生の時に白川小学校で田作りにかかわり、その後も田作りにかかわりたいという思いから、今年もご家族で財団の田作りを手伝ってくれました。大人顔負けの手作業でとても助かりました。



荻町集落の景観保全



田植え体験

5月29日、白川小学校5年生と本巣郡北方南小学校5年生の交流学习があり、休耕田にて田植え体験を行いました。



人材育成事業

12月26日、白川小学校5年生の児童より鏡餅を頂きました。財団では人材育成の一つとして、5年生の田作りにかかわる肥料や苗の他、白川小学校の畑作りやプランター栽培に必要な種や苗などの助成を行っています。今後も次世代の遺産保存のための人づくりにつながればと、積極的に教育活動を行っています。



財団が管理する村営駐車場

平成二十六年度の入り込み

白川郷観光の玄関口としてマイカーやバスの観光客がまず利用するのがせせらぎ駐車場です。年中無休で運用を行い、一年の約七割の期間はこの駐車場だけを稼働しています。普通車は昨年（平成二十五年）年間入場台数十一万台を更新しましたが、今年度も更に四万台増え、十一万五千台（前年比一〇四％）となり過去最高を記録しています。普通車がせせらぎ駐車場を溢れることが予想されるときにはみだしま公園駐車場、さらにそれ以上の大渋滞が予想される日には寺尾駐車場を稼働させます。今年度みだしま駐車場は一日稼働、二万六千台の入込、寺尾駐車場は二十七日間準備して、内二十五日料金徴収を行いました。総入込数は一万三千台となっています。

三カ所の駐車場の総合台数は十五万四千台、昨年比九千五百台増となりました。年間を通してみても盆の時期に台風に見舞われた八月、大雪となった十二月、一月を除いて順調に伸びています。

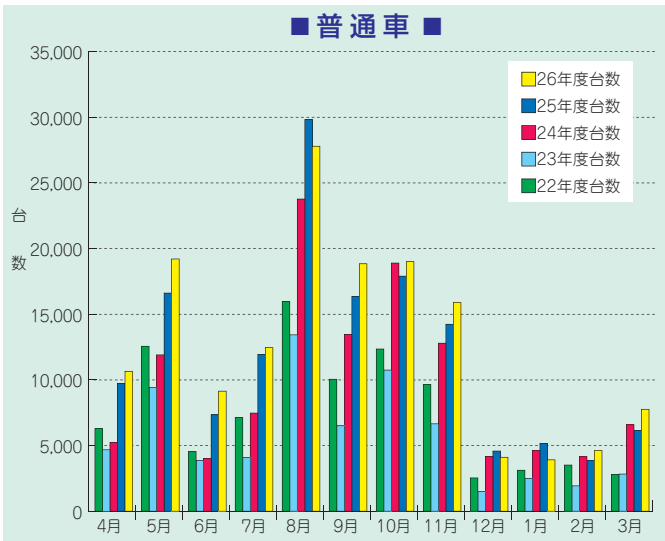
バス台数については前年比一〇七％と微増していますが、年々外国人客の増加に伴って今までの繁

忙期とは変化が生じてきました。最も顕著な例が四〜五月の立山黒部アルペンルート雪の大谷ウォークに、近場の観光地である白川郷を合わせたツアーの増加です。この期間は毎日百三十台平均でバスが入場、大変な混雑となりました。今までは紅葉に合わせた十、十一月がバスのピークでしたが、ここ数年はそれを超えてしまいました。せせらぎにバス停を置く定期バスもここ数年外国人観光客の増加が目立ってきました。多い時には何台もバスを増発、乗車客の行列と待機車両で大混雑を起こすことも多くなっています。今後も国や観光業者による外国人誘致の仕様によって様々な影響を受けてゆくでしょう。逆に白川郷が昇龍道プロジェクトの要となって周りの観光地を活性化することもありえるかもしれません。

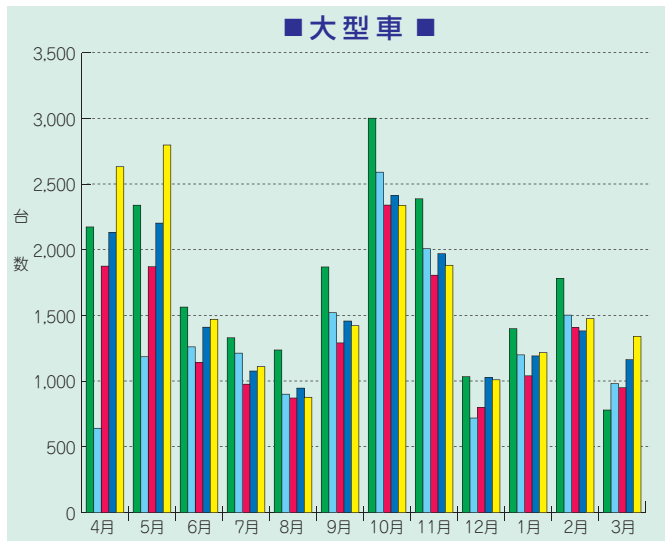
この三月に北陸新幹線が金沢まで開業、国内外の観光客が今後も増加してゆくことが期待されますが、駐車場は白川郷の玄関であるということに肝に銘じて、おもてなしの心を決して忘れず、最善の力で対応してまいりたいと思います。

平成22～26年度 白川村営駐車場 月別入込み台数比較

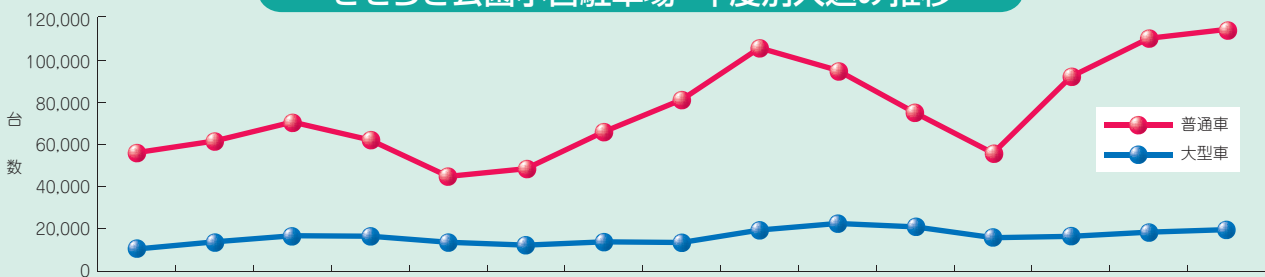
村営駐車場(せせらぎ+みだしま+寺尾)月別入込普通車比較



村営駐車場(せせらぎ)月別入込大型車比較



せせらぎ公園小呂駐車場 年度別入込み推移



	12年度	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
普通車	56,301	61,861	70,891	62,302	44,953	48,624	66,272	81,557	106,257	95,583	75,245	56,047	92,526	110,844	115,104
大型車	10,305	13,726	16,644	16,409	13,524	12,154	13,724	13,415	19,356	22,492	20,863	15,699	16,345	18,344	19,545

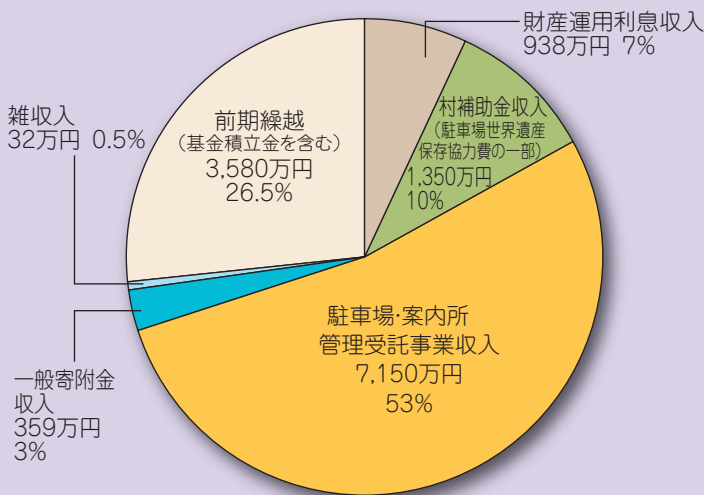
…一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団…

平成26年度

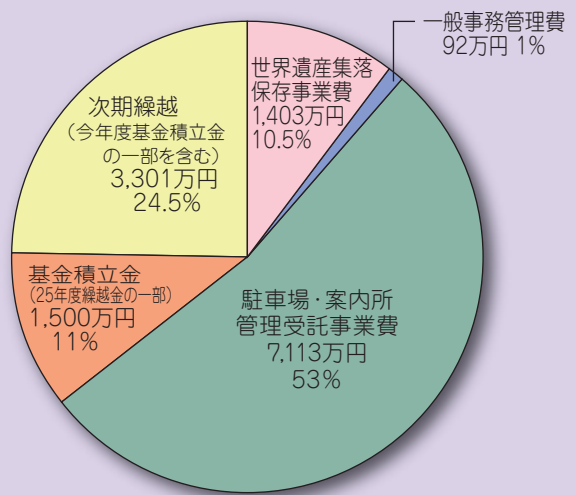
会計のあらまし

財団が、どのような収入を得て、どのように支出しているのか、平成26年度の会計状況をお伝えします。

歳入 1億3,409万円



歳出 1億3,409万円



平成26年度の主な事業

1. 修理事業		4,273,000円
差し茅	5棟	480,000円
伝統的建造物修理	1棟	420,000円
棟茅葺替	83/108棟	2,894,000円
トタン屋根葺替	1棟	479,000円
2. 修景事業		2,460,734円
修景協力費助成	5棟	757,000円
トタン屋根葺替		0円
ビニールシート指定色奨励事業	180枚	1,558,470円
一般建築物茅屋根補修	4棟	85,000円
オダレ助成	8枚	60,264円
3. 地域活性化事業		1,758,222円
自治保存会活動費助成		1,000,000円
自治保存会育成事業		726,120円
人材育成事業		32,102円
4. 水田復旧事業		1,861,754円
復旧農地の維持管理・活用	水田63.10a, 畑0.7a	1,861,754円
合計		10,353,710円

財源内訳

村補助金	10,000,000円
基金運用利息	353,710円
合計	10,353,710円

当財団は設立当初からせせらぎ公園他村営駐車場と総合案内「であいの館」の指定管理業務を受託しており、これらの運営管理を行いながら、世界遺産集落を保全するための公益事業を行っております。職員の人件費等主な経費は受託費で賄われております。

せせらぎ駐車場では利用客から駐車場利用料（普通車300円・大型車2,000円）、世界遺産保存協力費（普通車200円・大型車1,000円）の二種類を徴収しています。これらの収入は一旦財団からすべて村に収められます。

そのうち駐車場利用料はせせらぎ公園及び駐車場の維持管理費に当てられ、一部は駐車場・総合案内管理受託事業費として財団の歳入となります。世界遺産保存協力費は世界遺産地区の保存のために使われます。こちらも一部が村から事業及び運営費補助金として財団に入ります。これは財団の主目的である世界遺産集落保存事業を遂行するための大切な収入源となっております。平成26年度のせせらぎ公園小呂駐車場の総収入は、駐車場利用料約7,257万円昨年比（391万円増）、世界遺産保存協力費約4,383万円同（216万円増）となりました。同様に寺尾駐車場及びみだしま公園臨時駐車場で徴収された駐車場利用料1,993万円同（259万円増）をあわせて村に納付させていただきました。そのうち駐車場、案内所管理受託事業費として7,150万円、集落整備事業及び運営費補助金として1,350万円を村からの収入とさせていただきます。

財団が保有する基金は約6億9,293万円、26年度は938万円の利息収入となりました。財団の貴重な自主財源として集落保存事業を中心に活用しています。

財団が保持している基金の現在額(平成27年3月)

基本財産	302,361,000円
運用財産	390,575,644円
合計	692,936,644円

ありがとうございます

募金ご協力者一覧 (敬称略)

平成26年度

千葉県 乗越 隆司
 埼玉県 細谷 恵子
 東京都 藤井 昭彦
 神奈川県 北村 秀雄
 〃 小野 剛
 〃 小林 茂典
 愛知県 森 顕敏
 〃 大森 國雄
 〃 加藤 重夫
 〃 北條 正典(平和荘)
 〃 佐野 幹雄
 〃 岩田はるの
 〃 (株)セディナ
 岐阜県 早川美和子

岐阜県 (株)三輪酒造 三輪 高史
 〃 小島 邦彦 (株)飛騨企画販売
 〃 (有)高山観光写真サービス
 〃 五味 裕子
 白川村 (有)ひだ白川郷 かたりべ
 〃 田口屋製菓
 〃 戸川 洋治
 〃 板並 和夫
 富山県 高田 宗明
 滋賀県 (株)文教スタジオ代表取締役
 一圓 泰成
 三重県 紺谷 圭子
 和歌山県 石田 真紀
 兵庫県 西本 照也
 台湾 林 美 吟

竹筒募金

国重文 和田家/ふる郷 長瀬家/神田家/明善寺郷土館/民宿 十右エ門/民宿 きどや/民宿 ふるさと/民宿 久松/民宿 利兵衛/民宿 幸エ門/民宿 与四郎/民宿 源作/民宿 大田屋/民宿 よきち/民宿 伊三郎/民宿 のだにや/民宿 孫右エ門/民宿 志みづ/民宿 かんじゃ/トヨタ白川郷自然学校/民宿 一茶/民宿 わだや/旅館 城山館/土産 こびき屋/土産 おけさ/土産 山楽堂/土産 佐藤民芸品店/土産 しゃくなげ/土産 山里/土産 今藤商店/土産 白楽/土産 山峡の家/食事 基太の庄/土産 合掌庵/見学 合掌造り民家園/土産 古太神/食事 合掌 森崎/焰仁 美術館/土産 元気な野菜館/団子 いさなみ/食事 喫茶狩人/土産 恵びすや/土産 おいしんぼ/食事 喫茶今昔/白川郷の湯/食事 いろり/民宿 やまもと/たなか屋/土産 ぜん助/食事 手打ちそば処 乃むら/喫茶 さとう/鳩谷郵便局/土産 道の駅白川郷/喫茶 千晴/いっぷく ちな/食事 白水園/食事 飛騨路/盛善/食事 ます園文助/土産 めめんこ/城山 天守閣/食事 与ぜ/お食事処 忠兵衛/食事 しらおぎ/喫茶 鄙/あらい食堂/貸し自転車手塚/食事 味処ゆきんこ/団子 ちとせ

世界遺産白川郷合掌集落保存基金にご理解とご協力を

合掌財団では世界遺産集落の景観保護を行うため、合掌造り家屋の修理に対する助成や合掌造りを取り巻く全ての建物が農村風景に影響を与えないような修景に対する助成等を中心に、集落に暮らす住民の生活により密着した事業展開を心がけております。

それらの経費を賄うには、合掌財団のわずかな基本財産の運用益だけでははるかに及ばないのが現状です。現在はそれを補う窮余の策として岐阜

県の助成を得て、白川村が緊縮財政の中から捻出しています。今後の社会情勢の変化に伴い、合掌財団に対して要請される事業がますます多様化していくものと予想されます。合掌財団がこのような課題にできるだけすみやかに、的確に対処していくためには基本財産をより充実させ、運用できる果実をもっともっと増やさなくてはなりません。どうか合掌財団の趣旨にご賛同くださり、皆様の暖かいご支援、ご協力をお願いします。

振替による場合

- ・郵便振替口座 00810-6-51954
- ・飛騨農業協同組合白川支店(普) 9203800

基金に対する
ご寄付お送り先
及び資料請求先

現金書留による場合及び資料請求先

〒501-5627 岐阜県大野郡白川村荻町2495-3
 (一財)世界遺産白川郷合掌造り保存財団
 TEL(05769)6-3111 FAX(05769)6-3113
 ☆インターネットでも受け付けています。
<http://shirakawa-go.org/kikin.html>

編集後記

今回巻頭記事を白川村地域おこし協力隊の大倉氏にお願いし、ご執筆頂きました。村外からみえられ一緒に暮らしてゆくことを選択され、地元民とも観光客とも違った方々の意見に耳を傾け、新鮮な目線でこのふるさとを見直すことは貴重です。

また自治保存会育成事業等を通して、実際に共通の問題を抱える、重要伝統的建造物群保存地区や世界遺産地域などに赴き、地域ごとの問題やその解決策等に触れ、我がふるさととの振興発展に生かしたいと思えます。また観光の面において白川郷は図らずも各地から先進地として見られています。勿論様々な問題を抱えておりますが、文化財の保存と観光との両立について多くの問い合わせがあることから、白川郷をモデルとしたい意向がくみ取れます。教えられることがあれば協力を惜しまないようになりたいものです。

財団が駐車場の運営を受託してゆくことの是非については、以前より検討課題になっておりますが、白川村はやはり観光立村でやっていかなければならないことを再認識し、それを一つの礎として、合掌造り集落が守られているという事実を忘れないようにしたいと思います。